

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 私たちの暮らしと税

喜多方市立第一中学校 三年 佐藤 希美

「税金なんて、いらない。」

私は、そう思っていました。私が税を使っているわけではないし、私たち学生はお金をかせぐことはできないのに不公平だと思っていました。しかし、学校で行われた租税教室でのお話を聞いて、私の意識は大きく変わりました。そこで分かったことが三つあります。

一つ目は、税金が必要な理由についてです。租税教室では、「アナザーワールド」という税金のない世界のビデオを見させていただきました。税金のない世界では、まず道路の整備がされていませんでした。また、子ども達は学費を出せないため学校に行けず、消防車や救急車、警察もお金がかかるため、呼ぶこともできません。その他にも、ごみ収集がされず、町はごみだらけになったりと、不便でならない世界でした。私は、税金を使っていないと思っていましたが、私たちが生活する上で、たくさんの税金を使っていることが、分かりました。私たちが安心・安全に暮らすためには、納税することはかせませません。

二つ目は、税金の公平性についてです。私は、収入がない小さい子どもや学生、高齢者が、収入がある大人と同じように消費税などの税金を払うのはおかしいのではないかと考えていました。しかし、税金には、公平性があることを知りました。税金は、国民の間で公平に分かち合う必要があります。消費税などは、その人の所得に関係なく、同一の負担を求めることが公平であるという考え方による税金です。しかし、所得税などは、経済力のある人にはより大きい負担を求めることが公平であるという考え方による税金だそうです。税金の制度は、複数の税金をうまく組み合わせることで、収入のない人やある人の公平性を保っていることが分かりました。

三つ目は国の予算についてです。私たち学生に九年間の義務教育でかかる一人あた

りの費用は、なんと約八百五十万です。また、子どもの人口は減っているものの、少子高齢化の影響で高齢者の人口が急激に増えています。そのため、年金や福祉などで税金はたくさん使われています。国の借金という言葉を聞きますが、それは年々増加しています。

十年前に大きな被害をもたらした「東日本大震災」。今も私たちに苦しめる「新型コロナウイルス」。その他、様々な災害にも税金が使われています。そんな私たちが暮らすために大切な税金にも、課題があります。それは、一人あたりの税の負担額が増加していることです。以前は一人の高齢者につき、八人程度の若者という比でしたが、二〇五〇年には、高齢者と若者が一対一という比になるそうです。これは、人口減少や少子高齢化が原因のひとつです。

課題も残される税ですが、私たちが安心・安全に暮らすためにはかかせない存在です。これからの社会をになう私たちが、このバトンをしっかりと受けついでいきます。